

仏教音楽 人物伝

- 11 -

福本 康之

中田 喜直 (1923~ 2000)

Nakada Yoshinao

《ちいさい秋みつけた》など
童謡作曲家として知られる

やさしくも奥深いメロディーを創作

単純にして、味わい深いメロディー……ドレミのわずか3音で構成された、幼児にも覚えやすい歌に「おつとめ」があります。

正信念仏偈の帰敬の頌(命無量寿如来 南無不可思議光)に旋律を付けたもので、《幼児のおつとめ》を構成する1曲として創作されました。小さい頃に幼稚園などで歌ったことを記憶している方も少なくないでしょう。

それは、この旋律が、単純ながらも記憶に残る味わい深さを兼ね備えているからです。

作曲したのは、童謡《ちいさい秋みつけた》などで知られる中田喜直です。実は、この《ちいさい秋》の歌い出し、「誰かさんが誰かさんが 誰かさんが 見つけた」という部分も、3つの音で書かれ

ています。

子どもの耳になじみやすく、それでいて大人も飽きがないこのメロディーは、まさに作曲家・中田の真骨頂といってもよいでしょう。

中田は、一般に童謡作曲家として知られ、昭和54年から平成12年には日本童謡協会会長の要職にありました。それだけでなく、東京音楽学校(現・東京藝術大学)で作曲法を

学んだ、芸術作曲家としての一面も備えています。



1980年頃の中田喜直(写真提供=音楽出版ハピーエコー)

例えば、30曲近く遺されている仏教音楽作品のなかにも、混声合唱組曲《そよ風のなかの念仏》より(詞・中川静村)や、京都女子大学女声合唱団のために書かれた《春の仏》(詞・城左門)などの芸術的作品があります。

こうした中田の経歴に鑑みると《ちいさい秋》と「おつとめ」の旋律に共通する3音の世界は、単純というだけではなく、さまざまな音楽を知り尽くした作曲家・中田喜直が、いろいろなものを削ぎ落とした結果、到達した境地、ともみることができるといえる。

《おつとめ》のこの旋律は現在、『音楽礼拝—正信念仏偈による』(平成29年ご制定)にも依用されています。音楽礼拝でお唱えするとき、やさしくも奥深い浄土真宗のみ教えが、中田のメロディーに重なることでしょう。

(敬称略)
(本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室長)